

制服生地メーカー「三甲テキスタイル」を訪問しました

令和6年11月29日（金）



秋の気配がますます濃くなり、街の街路樹にまで紅葉が降りてきた11月29日（金）に、全国高校生フォーラムなどの発表会に参加する本校の生徒5名と引率教員である柴田先生と金澤が、本校の新制服の生地の特徴である尾州生地进行製造している大垣市の三甲テキスタイル株式会社を訪問しました。



この取組は津島毛織工業協同組合の安達様に、本校の取組である「つしま・Mottainai・Project」の関係者の中で唯一現場を見学で

きていない制服生地メーカーを見学したいというオファーをしたところ、明石 SUC や牧村株式会社などの協力もいただいて実現したものです。

当日は、同社取締役副会長の桐山耕治様、代表取締役社長の野倉健作様、ユニフォーム事業部部長の平岡利昭様、大垣工場工場長の今村和久様、取締役商品開発部長兼ソリューションビジネス部リーダーの谷村智昭様に丁寧にご説明いただきました。

まず、野倉様から三甲テキスタイルは、糸作りから生地作りまでを一貫生産できる会社であるという説明を受けました。

次に桐山様から、生徒に向けて質問されました。

「尾州生地生産の特徴は何だと思えますか？」

生徒達は今までにも、尾州生地の特徴は学んできたつもりでしたが、作業工程に関わることについてのどのような特徴があるか自分たちはまだわかっていなかったことに気づかされました。桐山様からは、

- 1 分業制で生産すること
- 2 水が大事であること

この2点であることが、示されました。1については、現在上映中の映画「BISHU 世界でいちばん優しい服」を観ていた生徒は、その中でも取り上げられていたことに気づきました。また、2については、その後の施設見学の中でも説明がありました。同じ生地を使って同じ職人さんの手によって生産しても、なぜか同じ風合いの生地はできないことがある。不思議だったが、それは木曾三川に囲まれたこの地区の水が成せる技であり、世界三大ウール生産地になったのには、水が大きく関わっていたことを知らされました。

その後、工場内の施設を製品製造工程順に見学しました。工場内は、機械の音で普通の声では聞き取れないため、インカムをつけて説明を受けました。説明していただ



いた、谷村様からは製造工程ごとに丁寧に説明していただき、時にはその工程で働いている方から直接お話を伺うこともできました。

その中には、かつて津島市内にあったメーカーで働いていた経歴を持つベテランの名工が2名みえました。織布課シオンヘルマイスターの山内和義様とインスペクションマイスターの福田昇治様です。お二人とも70歳を超えても、卓越した技を後世に残すため、若手の職人の育成もかねて現役で働いてみえました。繊維業界は、厳しい時期があり会社名が変わったときもあったが、職人はそのまま引き継がれており、その技術も継承されてきたそうです。今後もお二人の技術が引き継がれ、新しいイノベーションに活かされていくものと感じました。

行程を全て終えた後、本校から事前にお伝えしていた質問についてもお答えいただきました。説明によって、より深い学びを得ることができ、「ウールは繊維の王様」という言葉が実感できるまでになりました。これから生徒達は本番の発表に向けて最後の準備に向かっていきますが、本番が待ち遠しくなりました。

最後に、この日を迎えるに当たり、三甲テキスタイル株式会社の皆様、津島毛織工業協同組合の安達様、明石 SUC の服部様、牧村株式会社の室木様にお力添えをいただいたことに感謝申し上げます。

今後も、津島高校はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）申請書類や全国高校生フォーラムなどで、尾州生地を取り上げてまいります。また、関心のある生徒の皆さんは、職員室教頭席までお越しください。みんなで世界三大ウールである尾州生地を盛り上げていきましょう。奥が深くて楽しいですよ。

教頭 金澤 学

